

学校給食無償化 必要性を訴える

秋田市民有志がつどい



「学校給食無償化に向けたつどい」が秋田市のにぎわい交流館で開かれ、主催者が市内小中学校の給食無償化の必要性を訴えた。県立大生物資源科学部の近藤正准教授による講演も行われ、参加した約70人が安全な給食の提供について考えた。

市民有志でつくる「学校給食無償化と安全な食材をめざす秋田市民の会」（田口則芳代表）の主催。

事務局の新日本婦人の会秋田支部の生田目静子支部長は、文部科学省の調査で全国の自治体の3割が公立小中学校で条件を設けずに給食を無償提供していることに触れ、「義務教育なのに住んでいる地域で格差が生じるのはあってはならない。安心して子育てできる環境をつくるための運動に力を尽くしたい」と話した。

市民の会は今後、市内小中学校の給食無償化を市長と市議会に求める署名活動を実施するとして参加者に協力を呼びかけた。

このほか、近藤准教授が「子ども達に安全な食材での給食が必要なわけ」と題して講演した。

つどいは16日に行われた。（佐々木優）